

医学図書館の相互利用サービス ——シリーズ「京都大学図書館巡り」——

医学図書館閲覧掛 児 玉 優 子

医学図書館は医学部キャンパスの南端、附属病院の北隣にあります。おもな来館者は医学部・附属病院・関係部局(再生研など)の方ですが、ほかにも薬学部・農学部・人間環境学研究科・情報学研究科など、生命科学に関連する幅広い研究者の皆さまにご利用いただいています。

生命科学分野では雑誌論文が主な情報流通ルートです。十数年前は料金を気にしながらオンライン検索していたMEDLINE(医学文献のデータベース)がCD-ROMになり、さらにそれがCD-ROMサーバで全学に提供されるようになり、今ではインターネットで無料で提供されるものまで現れました(PubMed)。

気軽に文献検索できるようになると、読みたい文献が増えます。けれども一つの図書館で利用できる雑誌には限りがあります。それをカバーするのが、図書館の相互利用サービスです。学内の他の図書館・図書室をご紹介したり、学内にない場合は他大学図書館から複写物を送ってもらったりします。

医学図書館においても、相互利用は業務の大きな位置を占めています。昨年1999年度の取り扱い件数は以下のとおりです。

学外への複写依頼 6,578件
(うち海外手配 64件)

学外からの複写受付 16,900件

平均すると毎日約30件を学外に手配し、約60件の複写物を学外へお送りしていることになります。毎日大量の郵便物が全国を飛び交っています。

医学図書館を通じて学外手配できるのは、医学部・附属病院・関連部局の方です。申込書を書いていただくと、担当者がまずその資料を所蔵している図書館を探し、必要な文献を指定して複写を依頼します。全国の大学図書館が接続し

ているNACSIS-ILLというオンラインシステムを利用しています。平均3～4日、ほとんどの文献は一週間以内に入手できます。大至急の場合はファクシミリで送ってもらうこともあります。

一方、学外からの申込みは、大学図書館・病院図書室・開業医・医薬品メーカーなど多様です。NACSIS-ILLシステムやファクシミリで、様々な資料の複写申込みが飛び込んできます。本棚から一冊一冊探してきてコピーをとり、料金を計算して封筒に入れ、郵送します。

学内でも宇治・熊取・犬山などの遠隔地からは、学内ILLの複写申込みがあります。

最近の悩みは、インターネットによって情報の流れが速く、また、広がったことです。例えば雑誌最新号の情報は、印刷して送られてくるよりずっと速く流れます。学外手配しても、どの図書館にも届いていないということがしばしばあります。また、NACSIS-Webcatで所蔵を調べた学外の方が複写を希望されるケースもあります。逆に、今までは所蔵している図書館が見つからなくて入手できなかった文献も、国内外の様々な図書館や学協会のホームページを通じて見つけれられるようになりました。

医学図書館は「日本医学図書館協会」という医学系図書館ネットワークにも加盟しています。日本医学図書館協会では70年以上前から相互利用が活発に行われています。特に医学情報は、患者さんの命に関わるものでもあるので、迅速な資料提供が心がけられています。

ひとつの図書館は、図書館ネットワークへの入り口です。探している資料が見つからないとき、どうぞお気軽にご相談ください。

(こだま ゆうこ)